

国語(小)部会

I. 研究の概要

1. 研究主題

多様な手立てによる「総合的な国語の力」の育成
～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用を目指して～

2. 研究主題設定の理由

①説明的文章教材を取り上げる必要性について

昨年度までの研究領域である文学的文章教材と共に両輪を成す説明的文章教材の指導を研究対象にすることで、「読むこと」、とりわけ読解を基本とする領域の「総合的な国語の力」の育成を図ることができる。

②説明的文章の教材としての特徴

いわゆる「単元を貫く言語活動」についても、より多様な活動と結びつけることができ、文学的文章教材とは異なる切り口で、指導計画を工夫・作成することができる。

③「多様な手立て」について

子どもの実態と「つけたい力」に応じて、教材の特性を生かした「手立て」を講じて学習活動を進めることで、次の学年や発達段階につながる国語の力を身につけさせることができる。

④副題「説明的文章教材における『表現のスキル』の習得と活用を目指して」について

各学年で身に付けるべき基本的な「表現のスキル」の一覧として授業を研究・検討していく中で活用し、より有用な資料として育てていくことができる。

3. 研究仮説

説明的文章の指導において、「表現のスキル」の習得と活用をめざし、多様な手立てを工夫することによって、各領域を横断する「総合的な国語の力」を育むことができるだろう。

4. 研究内容

「読むこと」領域における「説明的文章」教材

- (1) 「読む力」を身につけさせるために、「表現のスキル」に基づいて、説明的文章を効率的に正しく読み取るための手立ての工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (2) 身に付けた「表現のスキル」を自分の表現（話すこと・書くこと）に活かすための手立て（＝「言語活動」）の工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (3) 「説明的文章教材の『表現のスキル』系統表」の妥当性の検証

5. 研究方法

- (1) 平成28、29年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。
 - ・授業学年の説明的教材について、「どの教材でどのような力を付けさせたいか」を児童の実態に鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。
 - ・年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。
 - ・授業公開後、事後研をもち、提言をまとめる。
- (4) 『表現のスキル』系統表については、HPに掲載した上で、その妥当性については、部会内外からの意見を随時受け付けるとともに、石教研第二次研究協議会の分科会討議およびアンケートで、部会員からの意見を集め、2カ年を通じてより適切な内容に発展させる。
- (5) 実技・理論研修会を開催し、今研究に関わる学習および日常の実践に生きる学習の場を設定する。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過（全体研究）

(1) 研究経過

- 4月11日 石教研第一次研究協議会・国語（小）部会 第1回役員研修会
研究計画の概要の確認など
- 4月14日 各市町村専門部会第一次研究協議会
- 4月下旬～9月中旬 研究協議・研究授業・各市町村専門部会第二次研究協議会
- 5月16日 専門部会役員研修会
- 5月18日 国語（小）部会 第2回役員研修会
- 5月25日 国語（小）部会 第1回推進委員研修会・第3回役員研修会
- 6月29日 国語（小）部会 第4回役員研修会
- 7月4日 国語（小）部会 第2回推進委員研修会・第5回役員研修会
- 7月19日 国語（小）部会 臨時役員研修会
- 8月31日 国語（小）部会 実技・理論研修会
- 9月13日 国語（小）部会 臨時役員研修会
- 9月29日 国語（小）部会 石教研専門部会第二次研究協議会拡大推進委員研修会・第6回役員研修会
- 10月13日 石教研専門部会第二次研究協議会・第7回役員研修会
- 11月13日 国語（小）部会 第8回役員研修会（第1回編集委員研修会）
- 11月21日 国語（小）部会 第3回推進委員研修会・第9回役員研修会（第2回編集委員研修会）
- 12月21日 国語（小）部会 第10回役員研修会（第3回編集委員研修会）
- 1月25日 国語（小）部会 第4回推進委員研修会・第11回役員研修会（第4回編集委員研修会）
- 2月上旬 各市町村専門部会第三次研究協議会
- 2月16日 第5回推進委員研修会・第12回役員研修会

(2) 研究成果

- 推進委員研修会および役員研修会を通じて、石教研専門部会第二次研究協議会開催に向けた実践研究の方向性、改善点などを明確にすることができた。
- 石教研専門部会第二次研究協議会拡大推進委員研修会などの機会を通じ、各サークルの取組状況や分科会討議の方向性を確認することができた。

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容



①授業公開の様子（低学年）

1年生 教材名「はたらく じどう車」

授業者：鎌田 響子 教諭（石狩市立花川小学校）

本時の目標：班で相談し、乗り物の「やくわり」と「つくり」を接続語「ですから」を正しく使って、順序よく説明文を書く。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1.（前時までの振り返り）「やくわり」と「つくり」を考えたことを確認する。	○「やくわり」と「つくり」の出でくる順番に気をつけて読みましよう。	ワークシートを配布
展開	2. 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">課はんで、やくわりとつくりをかながえて、のりもののせつめいをかこう。</div>	○（課題を提示する。）	
	3. 書く順番を確認する。 ・「やくわり」→「つくり」 4. つなぐ言葉「ですから」を確認する。 5. 1人ずつ考えた「やくわり」と「つくり」を出し合い、どれが良いか話し合っって、班で説明文を1つ作る。	○「やくわり」と「つくり」、先に書くのはどちらですか。 ○「やくわり」と「つくり」をつなぐ大切な言葉は何ですか。 ○「やくわり」と「つくり」を「ですから」でつないで、説明文を書きましょう。	

	<p>6. 完成した説明文を、班ごとに発表する。</p>  <p>つなぐ言葉「ですから」を確認する。</p>	<p>○「やくわり」と「つくり」のつながりを考えながら聞きましょう。</p> <p>完成した説明文は、大きなワークシートに記入して掲示・発表。</p> 
まとめ	<p>7. まとめ</p> <p>「やくわり」と「つくり」を「ですから」でつなぐと、わかりやすい。</p>	<p>○（本時の学習活動をまとめる。）</p>

○協議内容および成果と課題（低学年）



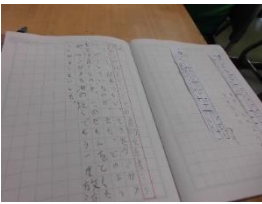
- ・つなぐ言葉「ですから」をはさんで、「やくわり」と「つくり」を入れ替えるチェック法は有効だった。子どもたちは、つながりが妥当であることを感覚的にとらえていた。
- ・ワークシートの並び替えは子どもの思考を整理するのに有効な手立てであった。
- ・今後の学習の基礎となる、段落意識や語彙の習得など、1年生のうちから身に付けさせるための指導の工夫が大切。

②授業公開の様子（中学年）

4年生 教材名「ウミガメの命をつなぐ」

授業者：菅野 清徳 教諭（石狩市立双葉小学校）

本時の目標：形式段落の要点をもとに、伝えたいことを要約文にまとめる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	<p>1. 前時の活動を振り返る。</p> <p>2. 自分の興味を持った部分について振り返り、話題に沿って選んだ形式段落の要点を確認する。</p> <p>①自分が伝えたいことの要約文を書こう。</p>	<p>○自分で選んだ話題は何でしたか。</p> <p>○その話題に必要な形式段落はどれでしたか。</p>	<p>形式段落の要点を短冊化したものを使用する。</p> 
展開	<p>3. 選んだ形式段落を「つなぐ技」を使って要約文にまとめる。</p> <p>4. グループで自分の要約文を発表し、自分の要約文を振り返る。</p> <p>要約文を交流することで修正するポイントをつかんだ。</p>	<p>○「つなぐ技」について説明をする。</p> <p>○同じ話題で要約文を書くグループを作り、作業をさせる。</p>	
まとめ	<p>5. 代表者が要約文を発表し、どこを工夫しているか考える。</p> <p>6. 次回は自分の要約文がさらに伝わりやすいものになるように、図や表を用いてリーフレットにまとめていくことを確認する。</p>  <p>短冊化したものをもとにつなぐ技を使って文章化</p>	<p>○この要約文の工夫しているところはどこだと思いますか。</p>	<p>書画カメラを使って要約文の発表をさせる。</p>

○協議内容および成果と課題（中学年）



- ・形式段落の要点を短冊化し、自分の書きたい場面を選択することは要約文を書くうえで有効な手立てであった。
- ・「つなぐ技」（①「つなぐ言葉を足す」 ②「足りない言葉を足す」 ③「別の言葉に言い換える」）は児童にわかりやすく、書く手段としては有効であった。
- ・要点は、字数制限をかけていたが、要約も字数制限をかけた方がよかった。
- ・「つなぐ技」を活用できないと要点の丸写しになってしまうので、活用させるための手立てをより工夫していくとよかった。

③授業公開の様子（高学年）

5年生 教材名「世界遺産白神山地からの提言～意見文を書こう」

授業者：鹿島 美穂子 教諭（石狩市立南線小学校）

本時の目標：資料から読み取った事実を根拠にして自分の自然保護に対する考えを書くことができる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. 前時の復習をする。	○前時にまとめたものを提示して想起させる。	
展開	2. 課題を確認する。 課 根拠を明らかにして、自然保護に対する自分の考えをまとめよう。	○課題を提示する。	意見カード配付
	3. 立場の確認をする。 4. 意見カードの書き方を知る。 5. 意見カードを記入する。 6. 友達の考えを知る。 	○今自分は、立場メーターのどこにいるのかを挙手で確認する。 ○意見カードの説明をする。 「根拠」と「考え」が必要なことを確認する。  ○考えが浮かばない児童を支援する。 ○書き終わった児童から、他の児童の意見を見に行かせる。 他の児童の意見を読んだら、「とても似ている」「少し似ている」「全然違う」をシールの色で分類して、相手の意見カードに貼る。	
まとめ	7. 全体で交流する。	○多様な考えがあってよいので、討議にならないようにする。	

○協議内容および成果と課題（高学年）

- ・児童の実態に合わせて、事実・資料・筆者の考えなどを丁寧に読み取った。自分の立場を明らかにしたり、意欲的に書いたりすることにつながった。
- ・意見カードの書き方を提示して、意見文に「根拠」と「考え」を入れさせる方法は有効だった。
- ・意見カードの交流の時、「とても似ている」「少し似ている」「全然違う」と、色分けしてシールを貼ることにした。児童の意欲を高める上で有効だが、シールを貼ってもらった側がそれをどう活用していくかを明確にするべきだった。

(2) 専門部会第二次研究協議会での協議内容

低学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○読み取りを助ける手立てとして、「やくわり」「つくり」「つなぐ言葉」を強く意識して指導してきたことが、読み取りを助ける有効な手立てとなった。(恵庭)○教科書と異なる資料をあえて提示することで、本来のはたらきができないことに気づく子が多く、「やくわり」「つくり」をしっかりと確認することができた。(江別)○各段落の本文を3つに分け、順番を並べ替える活動は、文どうしのつながりや全体の構成、「やくわり」「つくり」の部分を意識させるのに有効だった。(北広島)○文章構成を表にし、それぞれの自動車に合うよう正しくカードを並び替えていくペアでの活動は、子どもの思考を深めるのに有効だった。(千歳) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●具体物を見せるなどの工夫は内容の理解には有効だが、最終的に本文に立ち返ることが大切。
中学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○形式段落ごとに作成した「要約カード」は、ウミガメの紹介文作成の手立てとして有効であった。(恵庭)○本文のみを1枚にまとめ、全体を俯瞰して見えるようにしたことと、「ウミガメに関わる学芸員」という視点で紹介文を作成したことは本単元の学習に有効な手立てであった。(当別・新篠津)○各段落の視点が意識できるようワークシートの形式を工夫したことで、どの子も時間内に、段落のつながりを意識した絵文字の紹介文を書くことができた。(千歳)○ワークシートに「はじめ」「中」「終わり」と区切って書くことで作業内容が明確になり、時間内に絵文字を紹介する作文を書き上げ、交流する時間も確保することができた。(北広島)○説明文の文章構成や段落のつながりを「めだか」と「くらしと絵文字」で繰り返し指導してきたことで、次第に意識できるようになった。(江別) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●限られた時数の中で、どのように教材を読み取り、書く活動へとつなげていくべきか。
高学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○オリジナルの説明文を作成して、身近なものを題材としたことで、児童が意見文に取り組みやすくなった。(恵庭)○ワークシートを活用したことで、学習の流れが整理でき、意見交流がしやすくなった。(千歳)○文章を書くことが得意な子が多いということで、5年生で要旨を扱った。児童の実態に合わせて身につけさせたい表現のスキルを選択することは有効である。(江別)○要旨を書く手がかりとして、未完成な要旨を提示することで、要旨にまとめるのに必要なことに気付かせた。(北広島) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●活発な話し合いを行うために日頃からどのような活動を行うべきか。●単に書くだけでなく、児童自らが推敲する力をいかに身につけさせるかが今後の課題。

Ⅲ. 教育課程研究

1. 研究の経過

今年度は、第二次研究協議会で扱っていない各学年の説明文教材について、「言語活動例集」を作成した。

2. 研究の成果・課題

研究主題に『『表現のスキル』の習得と活用をめざして』とあるように、「読解場面」で身につけた「読むためのスキル」を、その後の「言語活動場面」で応用することが大切である。これまであまり扱ってこなかった「言語活動場面」について、扱うことができて良かった。部会報「はまなす」に掲載したので、今後の指導に役立ててもらいたい。

Ⅳ. 実技・理論研修会

1. 研修会の内容

研修会「国語科 フレームリーディングでつくる『深い学び』」

講師 筑波大学附属小学校 青木 伸生 氏

日時 8月31日（木）北広島市立双葉小学校5年生

昨年度に引き続き青木先生をお招きし、部会の研究主題に沿う形で、説明的文章教材の授業公開・講演会を開催した。今年度は、第1部に公開授業および事後討議、第2部は研修会テーマに沿った講演会を設定し、参加者の課題意識に広く応えられるよう工夫した。

2. 研修会の成果

国語部会員を中心に、60名あまりの参加があった。

第1部の公開授業では、5年生教材「世界遺産 白神山地からの提言～意見文を書こう」を扱った。フレームリーディングの手法を用いた教材文の読み取り方だけでなく、子どもたちに、より身近なテーマで意見文を書かせる意図を持った、提案性のある授業であった。第2部の講演会では、3年生の物語「モチモチの木」と5年生の説明文「言葉と事実」を取り上げ、フレームリーディングによる読み方と、構造的な板書のあり方について、実践的なお話をいただいた。また、新学習指導要領の考え方について、図表を提示しながら解説していただいたことで、指導要領の要求に応えるフレームリーディングの有効性、子どもの思考の整理を助ける構造的な板書の組み立て方など、参加者の理解の深まりと技能の向上が期待できる、有意義な研修会となった。



Ⅴ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- 「子どもの実態とつきたい力」という課題意識に立脚した授業づくりを行うことで、何を学ぶかを明確に意識した授業作りが可能となり、授業者と児童の双方が身についたことを確認し、実感できるような実践を行うことができた。
- 「型」を取り外して、「手立て」にテーマを絞ったことによって、授業者や各サークルでの自由度が高まり、活発な意見交流や個性的なアイデアに基づいた授業を作ることができた。
- 「表現のスキル」の習得と活用は、国語だけではなく他の教科にも活かせるものであった。「表現のスキル」習得に向けた総合的な国語の力の育成にもつながった。
- 第二次研究協議会の交流の仕方を工夫することで、研究討議の場が活性化した。

2. 課題

- 新たな試みとして作成した「表現のスキル」などの手立てを、より効果的な指導法として確立していくためにも、部会員以外に広く発信し、活用を促すとともに、継続して実践していく。

(文責 岩崎 晋也)